

▼ あなたを手のひらに刻みつける ▼

校長 阿南 孝也

「わたしがあなたを忘れることは決してない。見よ、わたしはあなたをわたしの手のひらに刻みつける」
(イザヤ書49節15・16節)

このみ言葉は、今年4月から洛星の専任教諭となったヴィアトール修道会のバティオノ・ウィリアム・セルジュ神父が、2015年4月18日の司祭叙階にあたり、特に選ばれた聖句です。「手のひらに刻みつける」とは、なんと力強い励ましの言葉でしょう。消えることがない、つまり神は私たちのことを決して忘れることがない方であること、さらに私たちのために傷つくことを厭わず、私たちの苦しみを担ってくださる方であることを力強く宣言されているのです。

神は人となり、私たちの中に住み、共に歩んでくださいました。そして手のひらに釘を打たれ、十字架刑を受けてくださいました。私たちの罪のために死に、葬られたキリストは、3日目に復活され、弟子たちに現れたと聖書は伝えています。キリストの復活は、キリスト者の信仰の原点です。

「その日、すなわち週の初めの日の夕方、弟子たちはユダヤ人を恐れて、自分たちのいる家の戸に鍵をかけていた。そこへ、イエスが来て真ん中に立ち、「あなたがたに平和があるように」と言われた。そう言って、手とわき腹をお見せになった。弟子たちは、主を見て喜んだ」
(ヨハネによる福音書20章19・20節)

復活されたキリストは、真っさらの体ではなく、十字架刑による傷を受けた体でした。キリスト教の信者は、私たちも世の終りに復活し、神の国で神と親しく交わることを許されていることを信じています。ですから私たちも、傷を持ちながら力強く立ってくださったキリストに倣って、人生において傷つくことがあったとしても、決して希望を失うことなく、立ち上がり、歩いていくことができますように、祈りたいと思います。

寒い日が続きます。体調管理に気を配って考査に臨んでください。よき学びは、必ず皆さんの人格形成の大きな力となるはずです。考査中の1週間、考査後タブローまでの1週間、そして2017年最後の1週間で、時に適った過ごし方ができるように心掛けてください。